

産大生と地域のかけ橋

ローカレッジ

Local × College

音楽・料理・文化
留学生の
地域活動



柏崎 まちかど研究室@新潟産業大学
冬のフェスティバル

～柏崎の冬を若者の力で盛り上げ隊～

県内3大学もゼミやサークルで参加！
ステージ発表・体験・飲食・ポスター展示

柏崎高校の探究学習に産大生が協力！

KSP I・KSP 発表会

まちかど研究室 / 国際理解研究室



刈羽村PR動画

刈羽小中学校で意見交換会



地域で活躍！水球部&文化部

NIIGATA COC + 「地域活動・学生交流発表会」

柏崎学シンポジウム・日本の伝統芸能・寄付講座



柏崎 まちかど研究室 @新潟産業大学

冬のフェスティバル

～柏崎の冬を若者の力で盛り上げ隊～
地域の方々と大学生が交流し、
若者の力をアピールすることを
目的として開催しました！



ステージイベント

キッズダンスが会場を
盛り上げてくれました！

- ・ nao dance school
- ・新潟産業大学附属高等学校
吹奏学部十産大吹奏楽部
- ・敬和学園大学
- ・新潟産業大学留学生（馬頭琴）
ガントルガ エンフトゲルトル



新潟産業大学からも多数出店！



新潟産業大学からも多くの出店
がありました！
金ゼミナールはゼミで収穫した
野菜を活かしたしみみおでん、
留学生は母国の料理であるミルク
ティーやボウズなど国際料理、学
友会からは白玉、たこ焼き、キャ
ンドル作り、オセロ対決など個性
豊かな出店をして頂きました。権
田ゼミナールからはふふ豆ごはん、
タピオカなど出店し、特に流行の
タピオカは大好評でした！



今回のイベントでは大学生
が日々学んでいる成果の発表
と、地域の方々との交流の場
となりました。ブースはそれぞれの団
体の専門性を最大限に活かした出店で、ゼ
ミナールでの活動を地域や他大学の方
々に伝えることができました。権田ゼミ
ナールのまちづくり分野における活動を
軸に、参加学生がそれぞれの学生生活で
取り組んでいるゼミでの学びやサークル
活動が融合し、一つとなったイベントで
した。初めての試みであり協力して頂い
た方々には十分な配慮が出来ていなかっ
たりと課題もありましたが、若者を中心
に人と人との繋ぎ、場を創出すること
を通じて、これからも柏崎の冬の一大イ
ベントとして周知されるよう私たち
ひとりに尽力していきます。

来場してくださった皆様、協力してくださった方々
のおかげで無事にイベントを開催することができました。
ありがとうございました！



2020年1月25日 10:30～15:00
於：かしわざき市民活動センター「まちから」

県内3大学が参加！

新潟工科大学

アイスクャンディーづくり
廃食用油回収



▲「トチオノアカリ」テーブルランプ

新潟経営大学

コケテラリウムづくり体験



コケテラリウムづくり体験



▲「COC+地域活動・学生発表交流会」
で使用された各大学のポスター展示

圧巻のダンスパフォーマンスに会場
全体が盛り上がりました！！



敬和学園大学

- ・学生制作動画
- ・ダンス発表
- 1. SAM'97
- 2. 国際ダンススクール・Freestylers 合同チーム



会場全体がアットホームな空間
で、柏崎の方々の温かさを感じる
ことができました！楽しく踊る事
ができました！！（敬和学園学生）

柏崎高校の探求活動に産大生が協力！

KSP I

KSP I

＼まちかど研究室＼



権田ゼミナールの学生は、KSP Iのまちかど研究室グループのサポーターとして9月から数週間に一度のペースで柏崎高校を訪れ、一緒に活動してきました。

まちかど研究室グループでは、柏崎を元気にする企画を考案。1～5組の5つの班に分かれ、若者の視点から具体的にターゲット絞りやアウトプットの方法を考えました。

9月から10月は、大学生と高校生でそれぞれ取り組みたいプロジェクトの共有を行いました。柏崎のスポット紹介、駅の利用者を増やすために商店街の活性化、マップ作成といった案が挙げられました。

11月には更なる探求をするために、まちあるきをしました。市街地に出ることによって、実際の柏崎の様子を観察したり、駅前商店街の店主の方や

「KSP」とは、「柏崎サイエンスプロジェクト」の略称です。「KSP I」では、柏崎高校1年生が主体となって探求活動を行いました。新潟産業大学では権田ゼミナールと留学生がサポーターとして、今までの経験を活かし助言をしながら、それぞれの課題の解決案を練りました。

地域の方からお話を伺うことができた。自分たちの目で見て、聞いてきたことをもとに、各班のプロジェクト案を改善・より良いものにしようと試行錯誤し、どのような形で成果を報告するのかを話し合いました。

ここでは、まちかど研究室グループの1組と5組の探求活動を詳しく紹介します！



1組のアイデア

1組の班では、柏崎を深掘りして盛り上げたい、穴場スポットやオススメのお店を若者に広く紹介したいという思いで活動を始めました。



▲駅前商店街をまちあるき

高校生たちは、柏崎は海が魅力的であったり、数多くある祭りやイベントに対して一生懸命取り組むといった良い点がたくさんあるにも関わらず、それらの魅力をいまいち活用できていないと感じていました。できるならばたくさんの若者に柏崎を楽しみながら知ってもらいたい…そう考えた結果、誰もが使う可能性が一番高い、アプリを作って情報発信をしようと思い付きました。

最終的にプロジェクト名を、かしわざき×まちかど研究室、アプリ内のアバターがかまちゃってほがっているという設定から、「かまちょ」に決定しました。

発表会では、実際にアプリ作成はできなかつたものの、えちゴンを模したアイコンやアバターのイラストと共に、仮にアプリを使ってもらえたら柏崎に関する情報の発信源になれるのではないかとといった推測や、知名度・来客数アップが望めるのではと考察がされていました。



なく、実際にその場に行くとポイントを得られるシステムやアバターを用いてより楽しんでもらう工夫が凝らせないか話し合いを重ねました。



5組のアイデア



5組の班では商店街を活気づけて商店街の利用者を増やすことをテーマに活動しました。商店街の人通りが少なく、お店の数が減っており、寂しく感じるという高校生のイメージからこのテーマに決まりました。商店街の利用客を増やすためには、街の人の意見を取り入れた企画を発信すれば商店街が賑わうのではないかと考えました。

そして考案したものは「街の人にインタビューをしてその意見を取り入れたデザインをシャッターに描く」というものです。シャッターに何を描いたのか、柏崎の有名なものは何なのか、閉まっているシャッターはいくつあるのかなど調べるために、高校生が地域に向いてインタビューをした



▲実際に考えたシャッターデザイン(両端)

り、現地調査をして情報を集めました。インタビュー先は駅前商店街のたかはし花屋、新野屋、商店街を歩いていた方で、「どうしたら商店街にもっと人が来るか」「シャッターにどんな絵があつたら柏崎らしさが出るか」など聞いていました。回答には、「若者向けのお店があつたらいい」「駐車場が利用しにくい」「柏崎のマスコットキャラクターのえちゴンや柏崎の風景、子どもが喜ぶ絵があると思う」との意見・提案があり、商店街の現状と課題を見つけることができました。またシャッターに描くデザインもイメージが湧き、発表会に向けていくつかのデザイン画を作成しました。

KSP I

国際理解研究室

発表会では、インタビューをした内容やデザインを紹介して、自分たちなりの考えと共に活気づけるための提言をしていました。

国際理解研究室では、10月7日と11月11日の2日間、新潟産業大学の留学生5名が活動に参加しました。

初日は留学生の母国(バン格拉デシユ、モンゴル、スリランカ、ウズベキスタン、中国)の生活・文化・学校等についてパワーポイントをを用いながら紹介しました。

2日目は、各国の紹介を振り返った後、高校生からの質問を受けました。「日本語を勉強して困ったことは」「外国人とうまくコミュニケーションを取



▲スライドで母国の紹介

るにはどうしたら良いのか?」「日本に来て困ったことは」などの様々な質問に対し、丁寧に答えました。留学生は今まで大人や小中学生との交流は経験があつて慣れていましたが、高校生の質問には色々と考えさせられ、また日本の高校生について知るよい機会になったように感じられました。柏崎高校の担当の先生からは「留学生の皆さんが流暢に日本語を駆使し、母国紹介や質問を受けてくれたことに生徒たちも刺激を受けた。今後の外国語の取り組みに役立つはず」とコメントをいただき、参加した留学生も「高校生は積極的に質問するので、今までと違う緊張感もあつたが大変楽しかった」と活動の感想を述べていました。



まちかど研究室

今年度の活動と
今後の展開！

大学の独自事業と なったスタンプラリー

新体制になってから初めての「まち研スタンプラリー@商店街」を開催しました。また、まちかど研究室オリジナルグッズを新しく制作し多くの方から好評を頂きました。

今年で5回目となる2大学共同プロジェクト「まち研スタンプラリー@商店街」が11月9日に開催されました。前年度までは、柏崎市からの補助金で運営してきましたが、今年度からは県からの補助金も一部活用し、大学の独自事業として開催しました。今年には小学生47人、大学生スタッフ46人が参加し、小学生3人1組のチームに大学生1人がスタッフとしてチームについて商店街をまわりました。

今年度は全チームが一斉にスタートするのではなく、各チームに与えられたクロスワードを解き、解けたチームからスタートする方式を採用しました。小学生と大学生が会話をしたり、一緒に問題を解いたりして交流を深めました。



▲スタンプラリーの様子

まちかど研究室は、これまでの活動を通じて商店街の方たちや地域の方々、さらには市内において徐々に知名度が高まってきているのではないかと考えています。そこで、更なる知名度のアップと親近感を持つていただくために、まちかど研究室オリジナルグッズを作成しまし

まち研グッズ 新しく仲間入り！

た。商店や施設では工夫を凝らした問題が出題され、子どもたちはわくわくしながら問題を解き、正解した時はとても喜んでいました。年に1回ですが、小学生と大学生、さらに地域の方々で交流する機会があり、商店街の方や参加してくださった方々から「子どもたちの元気な姿が見られて嬉しい」「問題を解くのが楽しかった」など多くの声を頂戴しました。



▲スタンプラリーの後は温かいスープを提供



▲まち研オリジナルグッズラインナップ

た。柏崎のマスコットキャラクターのえちゴンや柏崎の祭りの様子のポストカードをえんま市や紅葉祭、また柏崎駅の観光協会で販売したり、まちかど研究室のシンボルマークであるニコちゃんマークをモチーフにしたおりやステッカーをまち研イベントに参加してくれた子どもたちに配布しました。そして今年、新たにラインナップに加わったものが、まち研マークのボールペンとクリアファイルです。ボールペンの柄は全部で6色あり、これらはスタンプラリーの参加賞や「柏崎冬のフェスティバル」の景品にしました。貰った子どもたちは、どれも気に入ってくれて喜んでいました。卒業生の先輩方にも好評で欲しいという声が多くありました。



▲次年度のスタンプラリー会議の様子

スタンプラリーが 新しくなる？

今年度まで5回実施してきたスタンプラリーですが、若干マンネリ化しつつあ

KSP発表会

平成30年度から文部科学省によるスーパーサイエンスハイスクール指定校になっている柏崎高校（3期目の指定）。現在の2年生から文系・理系の全員が参加しています。その中の指定科目である「KSP（柏崎サイエンスプロジェクト）」の1・2年生の発表会に新潟産業大学の学生と教職員が参加し、様々な研究成果を聞いて来ました。高校生たちは若者ならではの視点で課題を見つけ、答えを探索していました。

12月17日 KSP II



12月17日、柏崎高校2年生のKSP IIの文系生徒のポスター発表会に参加しました。こちらでは、個人で疑問に思ったことを研究し、ポスターにまとめていました。

「柏崎の人口減少の理由」「スポーツの効果とは」「長く売れるお菓子の条件について」「美味しいステーキの焼き方」などスポーツや経済、教育や流行といった多くの分野の研究発表がされていました。

新潟産業大学からは阿部ゼミ・宇都宮ゼミ・黒川ゼミ・権田ゼミの4

▼個人の研究結果をポスターで報告



▲産大の教員による質疑・意見



つのゼミナールの学生が発表を聞きました。梅比良副学長、阿部先生、宇都宮先生、黒川先生、権田先生、スポーツ分野で佐々木先生の6名の先生方も参加し、専門的な質問やアドバイスをされていました。

幅広いジャンルの研究がされていて、大変興味深く、学生も今まで気にも留めなかったような新たな知識を得ることができたのではないかと感じていました。

1月20日 KSP I



1月20日、ブルボン本社10階にてKSP Iの発表会が行われました。柏崎高校1年生が、権田ゼミ生が協力したまちかど研究室の他、ドナルド・キーン研究室、地域理解研究室、国際理解研究室、数学探求研究室、理科探求研究室、科学技術探求研究室、効果的学習研究室の全8つの研究室に分かれ、3〜6人の少人数のグループ単位で各々の研究成果の報告をしました。

「商店街を活気づけて商店街の利用者を増やすには？」「水球で柏崎を活性化させるには？」と柏崎に関することから「成績を上げるために有効な勉強法」「英語でのコミュニケーションのポイント」といった私たち自身の身近なことまで多くの研究・考察がされており、とても面白く話を聞くことができました。

ポスターの見せ方についても、なぜ疑問に思ったのか、そこからどのような方法で調査をし結果が出たのか、さらに研究結果からの考察や今後の課題について、イラスト・表など使いながら分かりやすい発表をしていたように感じました。



実際に取り組んだ生徒たちは「目的を決めるのが意外と手こずった。」「自分たちのアイデアの提案に至るまでの流れが大変だった。」「発表を通して、自分たちが研究したことを他の人に伝えることができて良かった。」と感想を語ってくれました。



▲研究室ごとに研究成果を発表



A photograph showing a group of students in a classroom. In the foreground, a student is seen from the back, looking at a book. To their right, a student wearing a white face mask and a dark jacket with 'EXTRA' on the sleeve is looking down at a book. Further back, a student in a black and white striped shirt is looking towards the camera. Other students are visible in the background, some also wearing masks. The classroom has wooden desks and bookshelves.A group of students in blue uniforms are seated at a long white table in a classroom, working on laptops. One student in the foreground is looking at a laptop screen displaying a game or application. Other students are also looking at their laptops or papers. The room has white walls and a white ceiling.

アンケート回答者数

平成 31 年 3 月 8 日

ラピカにて刈羽村広報映像作品完成披露試写会

対象年齢：20 代～ 60 代 回答者数：44 名～ 47 名

令和元年 12 月 3 日
刈羽村立刈羽中学校にて動画鑑賞・意見交換
対象年齢：中学 3 年生 回答者数：33 名

令和元年 12 月 5 日
刈羽村立刈羽小学校にて動画鑑賞・意見交換
対象年齢：小学 6 年生 回答者数：24 名

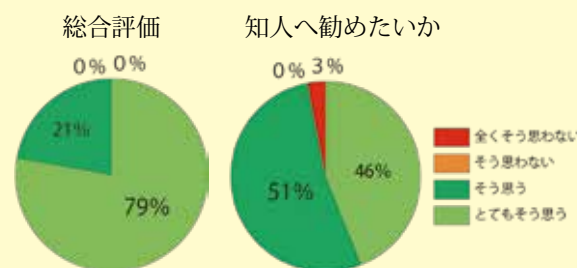
令和元年12月、刈羽小学校（6年生）と刈羽中学校（3年生）を対象に、PR動画鑑賞・意見交換会を行いました。小中学校は歴史編のみ、中学校は3本すべて視聴したのち、意見交換とアンケートに答えてもらいました。小中学生のアンケート結果をまとめると次のようになります。

良い点	改善点	次回作業
・地域の人の出演（桃・農産物編） ・ドローンの使用 ・声ありの紙人形劇風で分かりやすかった（歴史編）	・セリフに声を入れて欲しい（桃・農産物編 スポーツ・文化編） ・難しい漢字にはふり仮名をつけてほしい ・お寺の場所を詳しく知れたかった（歴史編）	・学校紹介 ・替え歌で紹介する ・クイズやCMを模したもので制作する ・紙芝居風にする

動画の総合評価と「知人へ勧めたいか」の結果を比べると、勧めたいかどうかの割合が下がっていることから、まだまだ改善の余地はあると考えます。また刈羽村の方々から、源土運動広場やおらんち米などを取りあげた方がいいという意見も多く、改善点にあげられました。

小中学生が考えてくれた次回作案を踏まえて、さらなるパフォーマンスの向上につなげていきたいと思います。

〈小中学生のアンケート結果を
まとめて平均したもの〉



平成 30 年度に権田ゼミナールで制作した刈羽村観光 PR 動画「刈羽村のいいとこ探検隊」と、まちかど研究室で制作した柏崎 PR 動画「みしてかしわざき」が YouTube で視聴できます。動画を観て、刈羽村、柏崎市の魅力を発見してみてくださいね！

11月2・3日に開催された刈羽村文化祭に多くの新潟産業大学の学生・教職員が参加しました。

樺田ゼミナールは初日に芸能発表会にて、PR動画を上映させていただきました。初めにスライドを使いながら動画の概要について説明をした後、歴史編と桃・農産物編の上映を行い、今後の広報活動を課題として

二日目は、茶道部による茶席が設けられ、留学生が芸能発表会のステージに立ちました。中庭の食フェスでは、4か国の留学生が模擬店で母国の料理を販売し食を通じた異文化交流が好評でした。

取り組む旨を報告しました。スムーズに音声の流れな
いというトラブルも起きま
したが、ラピカの職員さん
をはじめ先生やスタッフの
学生たちと協力して乗り切
ることができました。今回
も、交流を通して地域連
携に関心をもったことと思
います。

の上映で初めて目にした方も大勢いらつしやったかと思いますが。映画を見ていただけの貴重な機会でもありましたし、自分たちの周知不足を改めて実感しました。

権田ゼミナール以外にも、様々な部活・団体が参加しました。初日は、書道部の学生たちが字を書く指導したり、似顔絵を贈呈したりして参加者に喜ばれました。

▼ステージ上で発表する
小川琴音さん・笠原如乃さん



留学生の地域連携活動

Check!!

2019年3月～11月

様々な場所で
留学生が活躍しています！



新潟産業大学には、中国・モンゴルなどのアジアの国を中心とした様々な国から、多くの留学生が在籍しています。

そこで、留学生が地域の方々と交流した活動について、実際にイベントに参加した留学生のインタビューと共に紹介します！

また、本誌5ページでも紹介している柏崎高校「KSP」でも活躍しました。ぜひこちらもご覧ください。



刈羽村文化祭

11月2日、3日に開催された刈羽村文化祭に参加しました。

留学生が刈羽村文化祭に参加するのは今回で2回目です。模擬店を出店し、国際料理を多くの方々々に味わっていただきました。去年はモンゴルの料理だけでしたが、今回はバングラデシュ、ウズベキスタン、スリランカ、ベトナムの4カ国の母国料理を出店し、お客様に満足していただきました！

芸能発表会では、モンゴルの留学生によるピアノ演奏やモンゴル・日本の歌などを披露しました。最後の曲の後は、惜しみない拍手がやみませんでした。



突撃インタビュー

初めて刈羽村文化祭に参加して、たくさんの方々と食を通して国際交流できたことは、とても良い経験になりました。心を込めて作った母国の料理を美味しいと言ってもらえて嬉しかったです。とても楽しかったのでも来年もぜひ参加したいです。このような機会を作ってくれた新潟産業大学の方々に感謝しています。



バングラデシュ出身
アラミンさん

かしわざき市民大学

「かしわざき市民大学」とは、専門的な知識や話題のジャンルを取り上げて開講し、学ぶ喜びや生きがいを見出す機会をつくる市民向けの講座です。

今回は本学の留学生が講師を務めました。6月29日にバングラデシュ、7月2日にウズベキスタン、7月6日にスリランカのそれぞれの国の説明と国際料理を紹介しました。

受講された方からは、「料理だけでなく、国の事も知れてよかった」「その国に行ってみたくなった」と大絶賛して頂きました。



6月29日開催
バングラデシュの
家庭料理「ビーフカレー」
(シエマイというデザートも
おいしかったです！)

突撃インタビュー

初めて参加で緊張しましたが、日本の方とたくさんお話ができ、大変勉強になりました。私たち留学生との交流は、地域の方にとっても刺激となりとてもよい体験になるので、また積極的に参加したいです。



7月2日開催
ウズベキスタンの
家庭料理の
サラダ！
(他にピラフも
作りました！)

7月6日開催
スリランカの
家庭料理
「ミルクライスと
オニオンミックス」



スリランカ出身
コラトタゲ チャトミー
ペレーさん

チャレンジ夢クラブお楽しみ文化事業 異文化交流でアジアを知ろう

3月10日に西山ふるさと公苑で開催されたチャレンジ夢クラブお楽しみ文化事業「異文化交流でアジアを知ろう」に本学留学生7名と社会人学生1名が参加しました。

1部の国際理解セミナーでは大きなスクリーンを使い、母国の紹介を行いました。バングラデシュ・ネパール・モンゴルの留学生の3名が発表しました。母国にいる奥さんに電話を繋ぎ、国の紹介をするなど、ユニークな演出もありました。2部の国際フェスではモンゴルの歌や芸能発表を行いました。馬頭琴の演奏もや、地域の方々の巻き込みでのファッションショーも行い、とても盛り上がりました。



馬頭琴を演奏した
ガントルガ
エンフドグル
さん



モンゴル出身
スガリガル
バヤルマーさん

最初緊張していた留学生も、段々と笑顔となり国際交流を楽しんでいました。説明するだけでなく、体験してもらおうとアジアのことを知ってもらういい機会になりました！

今回初めて参加をし、母国の生活文化などを紹介しました。大きいステージに立つ日本人の方の前で発表するのは初めての経験だったのでとても緊張しました。日本人の方がモンゴルの文化を詳しく知っていたことに驚きました。また、日本の皆様と一緒にモンゴルの民族衣装を着ながら、モンゴルの伝統文化の紹介ができ、とても楽しかったです。日本人の皆様も自分達の文化について比較しながら質問されたことも、私にとって日本文化に対する知識が増え、お互いにより異国文化交流になったと思います。

地域で活躍！

産大水球部 & 文化部

新潟産業大学の部活動では、日々自身の技術の向上に向け、日本人学生、留学生と共に活動しています。ここでは、産大を代表する強化指定部である水球部と、日本文化の継承にも関係が深い文化部の皆さんの地域の様々な場面で活躍する様子を紹介します。



茶道部

新潟産業大学の茶道部は外部講師の田中房子さんをお招きし、お茶の立て方や飲み方などの作法、客をおもてなしするための立ち振る舞いやおもてなしの心などを教えていただきました。日々鍛錬しています。茶道部の活動は作法の鍛錬以外にも学外でも活動を行っており、5月には夢の森公園で開催された「カキツバタまつり」で公園内の足湯エリアにて、茶道のブースを開きました。「カキツバタまつり」で行われた茶道は、日頃使っている和室とは違って、屋根のみの開放的な屋外スペースで行われました。来場者も多く、屋外といういつもと違う環境の中、お茶を楽しむことができました。11月には刈羽村文化祭に参加し、ラ



▲刈羽村文化祭でお茶をたてている様子



ピカ内の茶道館で茶道のブースを開きました。50名近い多くの方に立ち寄っていただき、小さい子どもから年配の方まで幅広い世代の人たちに楽しんでいただきました。小さい子どもにも提供したお茶も評価が良く、おいしいという声を頂きました。

書道部

新潟産業大学の書道部は外部講師の宮嶋美恵子さんにご指導いただき、書道の手法などを学んでいます。書道部には日本人学生だけではなく、留学生



▶ 華墨彩に出展した作品を観賞する留学生たち



も所属しており、書道を通して日本の文化を学びつつ、自己の鍛錬に励んでいます。刈羽村文化祭では、来ていただいた方へ、似顔絵を筆で書くというブースを設けました。ブースに訪れてくださった方は10名ほどでしたが、幅広い世代の方々にお越しいただき、似顔絵を描いた際には、喜んで貰う事ができました。また、書道部に所属する留学生は10月29日～11月10日に飯塚邸で行われた「華墨彩」に参加し、自分たちの母国語で「ありがとう」や「頑張って」などを書き、展示しました。

◀ ブースに来て下さった方の似顔絵を筆で書いてる様子

行くぜ！ 産大水球部

新潟県外からも多くの部員の集まる水球部ですが、「水球のまち柏崎」を盛り上げるため、日々の練習や大会以外にもさまざまな柏崎のイベントや行事に参加しています。ここでは今年度参加、協力したイベントなどを紹介します。



▲ 海で試合を行う産大水球部員

【国内初の試み 柏崎の海で水球！】

水球を多くの方に知ってもらい、観てもらい、応援してもらうためのイベントとして、水球のまち柏崎で、「日本国内初」となる海での水球をメインとしたイベント「海で水球」が開催されました。

産大水球部としてイベントを盛り上げるため、当日の会場整備やパフォーマンスに協力させていただきました。第1回目の7月20日は笠島漁港で行われ、第2回目となる8月3日は柏崎港内「柏崎港観光交流センタータ海」前にて行われました。両日程ともに海での水球を一目見ようと多くの来場者が訪れ、大変な盛り上がりを見せました。

【海で水球 第1回目】

第1回目の7月20日は、来場者250名が集まるなか、笠島漁港で開催されました。イベントの開始時には櫻井市長による始球シュートが行われ、華麗なシュートを披露していただきました。イベントの後半ではブルボンウオーターポロクラブ柏崎総監督の青柳勸さんが解説する中、ミニゲームを行い、白熱した試合を行いました。水球選手の激しい攻防やさまざまなシュートの度に会場からは拍手や大きな歓声がわきあがりました。

【海で水球 第2回目】

第2回目は8月3日には、第1回を上回る来場者300名が集まり、柏崎港内「柏崎港観光交流センタータ海」の前で開催されました。今回は、産大水球部の選手に加え、世界水泳選手権大会に日本代表として出場した志水祐介選手と棚村克行選手が参加しました。まずは、産大水球部の佐々木監督の指示を受けながら普段プールで行っている練習を披露し、その後2チームに分かれミニゲームを行いました。代表選手や水球部員のプレーを間近で多く見ることができ、会場からは多くの歓声がわきあがりました。

【交流会・水球の日】

「海で水球」の2日目と日を同じくして、8月3日には新潟県立柏崎アクアパークにて、小学生を対象とした第9回柏崎小学生水球交流会や、「水球の日」というイベントが行われていました。「水球の日」イベントは今回で3回目となり産大の水球部も第1回目から協力させていただいています。

このイベントでは柏崎アクアパークのロビーや外広場、50メートルプール、3会場水球にまつわるゲームやコーナーを設けていました。産大の水球部としてはイベントの運営やゲームブースの担当、アクアパーク場内にてイベントの総合案内所での案内などを行いました。来場者550名と多くの方にお越しいただき、対応していた学生も楽しく参加することができました。



▲ ブースの担当をする産大水球部員

地域の人々に学ぶ産大生

柏崎学シンポジウム・「日本の伝統芸能」・寄付講座「ビジネス演習」

「地域にまなび、地域をおこす」地域実践教育大学を目指す新潟産業大学では、正規の授業科目から、学外へ広く公開された講演会まで、大学の様々な教育活動の場において、柏崎市内や県内の方々を講師に招き、地元の産業や文化、新たな取り組みなど、多彩な視点から講義、講演をいただいています。今回は、今年度開催された新潟産業大学附属柏崎研究所主催のシンポジウムと、多くの地域の方をお招きした特色ある2つの講座をご紹介します。

第3回 柏崎学シンポジウム 「人口減少時代における観光の可能性を探る」



▲ 基調講演をする花角英世知事

「人口減少時代における観光の可能性を探る」と題したシンポジウムが12月21日、本学講堂にて開かれました。新潟産業大学付属柏崎研究所が主催し、観光事業関係者や一般市民の方など約400名が参加しました。

第一部は花角英世新潟県知事知事による基調講演がありました。講演では、日本の人口減少と少子高齢化の推移について述べ、次いで新潟県の観光動向と食文化をPRするデスティネーションキャンペーンを紹介されました。2020年春には「ミシュランガイド新潟2020特別版」を発行することが決定しているそうです。基調講演の中で花角知事は「地域からの発信力が

花角知事による基調講演と パネルディスカッション

パネリストの方々
右から細山さん、
花角知事、春日先生



右から橋本さん、
矢島さん、西村
さん、柝堀さん



弱い。住んでいる地域に自信を持ち、地域の魅力を県民自ら発信していくことが大事だが、積極的に発信している人は1割に満たない」と新潟県の観光振興の課題を指摘されました。

第二部は柏崎市内で観光事業に携わる5名の皆さんをお招きして「小さな観光で地域を外に開く」と題したテーマでパネルディスカッションを行われました。パネリストは小竹屋旅館代表の柝堀耕一さん、ラ・ルース・エ・ロンブラ代表の西村遼平さん、NPO法人SPIN A TALE代表の矢島衛さん、荻ノ島ふるさと村組合事務局長の橋本和明さん、市商工観光課課長代理の細山和美さん、そしてコーディネーター

は本学附属柏崎研究所長の春日俊雄先生が務めました。パネリストの方から地域の資源を使った活動について紹介があり、各々が様々な形で柏崎を盛り上げる取り組みをされていました。

ラ・ルース・エ・ロンブラ代表の西村さんは「テーマパークやショッピングモールは地域活性化には繋がらない。ここでしかないことを発見し、どう発信するかが大切」と仰っていました。花角知事もコメンテーターとして参加し、「地域だけで取り組まず、他の地域とも連携・協力して盛り上げることが重要」と話されました。

今回のシンポジウムに参加し、既存の物に満足せず、新しい価値を創造することで地域活性化や観光客の増加に繋がるのではないかと思います。



▲ 5人のパネリストとパネルディスカッション

「日本の伝統芸能」

秋学期に、「日本の伝統芸能」という授業を履修しました。今まで、日本の伝統芸能について特に勉強してきたわけでもないです。ですが、講師の方々のわかりやすい説明のおかげで、楽しく学ぶことができました。

僕がこの授業で一番印象に残ったことは、「文化の衰退」についてです。このことは現代社会において非常に深刻な問題になっています。今ではインターネットが普及して、伝統的な文化の需要がなくなってきたり、高齢化が進み、担い手が不足したり、お金を生み出せなくなってきたなどと、いろいろな問題を聞いてきました。ですが、僕はこの授業を通して、日本の伝統芸



▶ 尺八奏者
八久保 保さんによる
古典尺八音楽



▶ ゴゼ唄継承者
金川真美子さんによる
ゴゼ唄の実演

能について、多くのことを知ることができ、僕自身もすごく興味を持てました。そして、この文化をなくさないためにも僕たち若者が行動しなければなりません。僕も身近に地域の文化の継承に関わることができる機会があれば参加して、何か少しでも日本の文化に触れて、日本の伝統芸能に役立てればいいなと思っています。

(経済経営学科1年 高橋 淳)

本講座は、今年度は新潟県大学魅力向上支援事業「新潟産業大学 地域実践教育（地域に学び地域をおこす）の更なる強化事業」補助金を受けて開講し、地域へ広くPRすること、例年より多い19名の聴講生の皆様から学生と共に受講していただきました。

寄付講座「ビジネス演習」

今年度秋学期に開講した「ビジネス演習」は、柏崎市内のIT企業「株式会社創風システム」の寄付により開講されました。同社による寄付講座としては昨年度、今年度の春学期に開講された「経営情報論」（テーマは人工知能）が大変好評でしたが、本講座はその第二弾となります。

本講座では「後継者育成イノベーションを学ぶ」をテーマとして、今日の地方都市における事業経営の後継者不足という状況下で、「経営、商売をやってみよう」という意欲のある若者を育成するための「イノベーション（新たな価値をつくる創造力）」の必要性について学びました。

▶ 運動遊び塾「しらさん家」の
白川正志さんによる
体験的な授業



この講座では、学生が授業に参加する場面が多く、まさにアクティブラーニングを体現しているような講座でした。若手経営者などの講師の方々から常に質問や課題を与えられ、学生がそれに取り組むことで、講義内容への理解もかなり深まったと感じました。

私は、柏崎で初となる障がい者を対象とした就労継続支援A型事業を手掛けている、株式会社With Youの小林俊介さんがお話しされていた「原体験を活かす」という話が一番印象に残っています。この「原体験」こそが、自分に出来ること、自分にしか出来ない事を考える上での大きなキーワードになると学びました。卒業後の進路に悩んでいた私にとって、とても参考になる話でした。

(経済経営学科2年 加藤 賛汰)



▲ コーディネーターの三宮直人さんによる
ケーススタディの振り返り

新潟大学で開催された

NIIGATA COC + 「地域活動・学生交流発表会」 に参加してきました！

NIIGATA COC + 事業とは

「ひと・まち・しごと」創生を循環させる NIIGATA 人材の育成と定着（事業期間：平成 27 年度～平成 31 年度）
NIIGATA COC + は新潟大学を中心に各大学、自治体、企業、経済団体等が一体となり、地方創生に取り組む事業です。
「インターンシップ改革」「地域活性化 / 産業振興」「教育の国際化」「国際交流」の推進で、県内就職率向上と国内外からの人口流入を実現します。



▲ 権田ゼミナールは、「まちかど研究室」の今までの活動と今後の方針について発表しました。課題はまだ沢山ありますが、「まち研」が地域貢献にどう携わっているのかを伝える事が出来て良かったです。



▲ 金ゼミナールの活動について、4 年生菊地若菜さんが、説明をしている様子です。沢山の方が興味を示し、ブースには人だかりが出来ていました！内容をしっかり説明しつつ、楽しそうに交流していました！



▲ 権田ゼミナールの 3 年生も参加しました！真剣に話を聞き、メモを取っている様子です。他大学の良いところを沢山吸収し、来年度の活動に活かせるよう、頑張ってください！



文・デザイン：金子 佐和子

令和元年 12 月 7 日に新潟大学
において、NIIGATA COC + 事業「地域活動・学生交流発表会」が開催されました。
本学からは、権田ゼミナールと金ゼミナールの 2 チーム計 13 名が参加しました。活動発表は二部構成で、前半は各大学の代表が概要を発表し、後半はポスター発表を行いました。名刺交換も積極的に行い、他大学の学生と沢山交流ができ、とてもよい刺激になりました。
この交流がきっかけとなり、本誌 2 ～ 3 ページ「柏崎冬のフェスティバル」に、敬和学園大学・新潟経営大学・新潟工科大学の皆様にご参加頂きました。

産大生と地域のかけ橋

ローカレッジ Vol.11

2020 年 3 月 10 日 発行

編集・発行責任者

新潟産業大学 経済学部講師

権田 恭子

※この冊子に関するご意見・ご感想をお寄せ下さい。

今後の参考にさせていただきます。

〒 945-1393 柏崎市軽井川 4730 番地

新潟産業大学 地域連携センター

TEL : 0257-24-8441

FAX : 0257-22-1300

Email : renkei@ada.nsu.ac.jp

前号の発行から 3 カ月足らずでの発行となりましたが、この間、これまでの活動の集大成ともいえる大きなイベントを行うことができました。巻頭で紹介した「柏崎冬のフェスティバル」です。「まちかど研究室」の補助金事業終了、新しい駅前拠点での活動スタートという環境変化の中で、「最後にやりたいことを思い切りやりたい！」と、提案から 3 カ月ほどで形にしたイベントは、多彩な「若者の力」が凝縮され、笑顔があふれるものとなりました。

こうした無茶な計画が実現できたことは、これまで学生達が地道に育んできた「人と人とのつながり」の賜物です。学内のゼミやサークル、高校生や地域のキッズダンスチーム、そして COC+ 事業がご縁となった県内大学の皆様は、私たちの計画の粗さにも目をつぶり、快く駆けつけてくださいました。まだまだ地域活動に積極的な学生は必ずしも多数派ではありません。そんな中、自分たちの呼びかけに応え、共に冬の柏崎の 1 日を盛り上げてくれた仲間たちの存在は、大きな自信に繋がっていくでしょう。これからも権田ゼミでは、人と人をつなぎ、人々が憩い、楽しみ、地域を元気にする場を創出する活動を続けていきたいと考えます。拙い点も多々ありますが、地域の皆様には今後とも一層のご指導とご協力をよろしくお願いいたします。

編集スタッフ：文化経済学科 4 年 権田ゼミナール

五十嵐 滉貴 小川 琴音 笠原 如乃 金子 佐和子 高橋 堅登 宮田 春良

※ この冊子は、2019 年度新潟県大学魅力向上支援事業「新潟産業大学 地域実践教育（地域に学び地域をおこす）の更なる強化事業」補助金を受けて制作しました。